

## 令和2年度 海事科学部学生後援会 総会后 Q&A

### Q1. 総会報告資料について

Q1-1. 大学からの報告事項の「4）コロナウイルスへの対応（資料D）」がありませんでした。対応について知りたいです。

A1-1. 「大学からの報告事項の4）コロナウイルスへの対応（資料D）」は、お送りした資料のとおりですが、担当者が報告資料解説文の送付を失念しておりました。誠に申し訳ございません。報告資料解説文については、現在、ウェブサイトに掲載しておりますので、ご確認くださいるようお願い申し上げます。

Q1-2. 卒業判定資料を拝見させていただきました。卒業の判定対象外の方及び判定対象者だが不可となった方の合計は44名と想像していた数値（10%程度以下）よりもかなり大きい数値でした。この44名の卒業できなかった理由の分析、対策はなされていますでしょうか。なされているのであれば、内容を知りたいです。また、それらの理由を踏まえた在校生へのアドバイスがあれば合わせて知りたいです。

A1-2. 誠に申し訳ございませんが、担当者が報告資料解説文の送付を失念しておりました。資料Aの1枚目は、昨年度の卒業判定結果の状況を示しています。最近5年間では、卒業率は70%台後半から80%台前半となっており、2018年度にかけてみられた低下は収まり、2019年度は82%と持ち直し良好でした。2枚目は、3年次進級状況を示しています。最近5年間の進級率は平均87%とほぼ安定しており、2018(平成30)年度は90%に達したため、2019年度は少し低下したものの、学科改組後のカリキュラムに沿った教育を安定して実施できていると判断しています。ご指摘のとおり、卒業資料上の判定対象外の者及び不可となった者は合計44名ですが、2013年度から2016年度までの入学者4学年に及んでおり、現時点では個々の事例について詳細な分析はできておりませんが、一般的に留年（卒業又は進級不可）の原因については、毎年、留学の為に休学した者が数人占めるほか、主に「全学共通授業科目」又は「専門科目」の不合格により、卒業又は進級に必要な単位が揃わなかったことが挙げられます。海事科学部としては、1年時からクラス担任制を導入し、ゼミ配属前でもきめ細やかな履修指導を行える態勢を整えております。なお、他の資料の解説についても併せてウェブサイトに掲載しておりますので、ご確認くださいるようお願い申し上げます。

Q1-3. この夏一つもインターンシップに行っていないんですが、まだ就職活動にまにあいますか。親としてとても心配しています。ご回答の方よろしくお願いします。（資料EのP2、Q3を拝見しました）

A1-3. インターンシップ・就業体験は夏季に多く実施されていますが、現在のコロナ禍の影響を受けて、時期をずらして今後実施することを予定している会社もありますので、うりぼーネットの掲示版や就職指導を行う担任からの連絡に注意するようお子さんにお伝えください。なお、就職活動において、インターンシップ・就業体験は重要ですが、必須のものではあ

りません。今年度も3月1日が活動解禁日とされていますので、それまでにできる限りの準備を怠らないことが大切ですので、ご本人に悩み等ございましたら、指導教員やクラス担任といった本学部の教員や神戸大学キャリアセンターに相談するようお子さんにお伝えください。

**Q2. 単位（成績通知）の送付について年1度ですが、年2度にする事は無理でしょうか？**

A2. 本学部では、2019年度入学生の保護者のうち希望される方に対し、2年次から3年次への進級結果を4月に通知することにいたしました。それに伴い、保護者のうち希望される方への学業成績表の送付は、2019年度入学生の方から年1回（4月）に変更しております。誠に恐れ入りますがご理解のほどお願い申し上げます。

**Q3. 学内船舶実習の機会が今年は大幅に減ってしまい学生は残念に感じているように思います。今後の予定で、実習の時間確保が可能かどうか、代わりに機会があるか教えていただきたいと思えます。**

A3. 今年度はコロナウイルス感染症対策の為、船の運航が制限された状況下での実施となっており、学生さんが残念に感じていることに対しては申し訳なく存じます。学内船舶実習としては単位修得に必要な学習内容で実施しており、実習として必要な時間は確保して授業を行っているため、授業の代替として乗船機会を特別に設ける予定はございませんが、更なる経験が必要と判断した場合は、学部として必要な対応を検討いたします。また、今後の船舶実習についてもコロナ感染状況に拠りますが、引き続き、船の運航が制限された状況下であっても、できる限り通常の実習と同じものとなるよう努力いたしますので、ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

**Q4. 学部だけの問題ではありませんが、学校のウェブシステムを统一的に整えていただけないでしょうか。先生ごとにやり方が異なり、不具合も多く困っているようです。**

A4. 神戸大学では、リアルタイムで授業配信を行う Web 会議システムについて、前期は Webex を使用しましたが後期から Zoom に変更しました。現在、大学としては Zoom の使用を推奨しておりますが、前期に使用した Webex を継続して使用するか否かについては各教員の裁量に任せているため、結果的に教員毎に異なるシステムとなり、学生さんにご不便を感じさせる結果となりました。申し訳ございません。また、LMS（学習管理システム）は「BEEF」というシステムを统一的に運用しておりますが、こちらも各機能の使用については各教員の裁量に任せていることから、教員毎にやり方が異なっていることで学生さんにご不便をおかけしている場合があるかも存じます。大学としては、できるだけ不具合が生じないように、引き続き、システム基盤の整備に努めて参ります。ただ、申し訳ございませんが、大学における授業は、学問分野によって内容や方法が大きく異なっていることから、統一的な運用のできる部分が限られることについてもご理解くださるようお願い申し上げます。

**Q5. コロナ禍において先生と学生とのコミュニケーションのとり方がリモート授業では難しいでしょうか。（例）船舶実習で他の授業が受けられない旨、授業担当の先生に伝えた時、他にも受講できない学生がいるので、各自連絡するよう学生へ呼びかけていただいた方がよいかもと伝えると、先生から学生にアプローチするのではなく、あなたが取りまとめて連絡すべきと回答**

があり、配付されていた実習者名簿を送ったところ反応が無かったそうです・・・学生もリモートで友達も会うことも少なく誰が誰かがよくわかっていないなか、取りまとめて連絡するのは無理ではないでしょうか。また、名簿を送付したことに対し、何らかの回答をしてもらいたかったです。

A5. この度は不愉快な思いをさせて申し訳ございませんでした。学内船舶実習により欠席者が生じる可能性のある授業の担当教員には、事務担当者から事前に実習者名簿を送信しておりますので、学生さんにそのような要求をしたのは、授業担当教員の方の確認が不十分だったためと思われる。また、現在のコロナ禍では、文面のみでのコミュニケーションにおいて、双方向からのやり取りがより重要となっていることを再認識するよう教職員へ伝えます。

#### Q6. 対面授業再開について

- ・小学校・中学校・高校等は対面授業されていますが、来年度は通常授業の再開を希望します。
- ・娘は今年入学しましたが、一度も大学に通っていません。来年度からは大学に通えるよう後援会からも大学に働きかけて頂きたいです。
- ・一人で下宿生活をしているため、オンライン授業も続いているようですし、金曜は時々大学に行っている生活、心配です。すべての授業が対面になってほしいです。コロナ感染への配慮でしょうが子供たちは、サークル活動、飲み会で集まってしまっているのではないのでしょうか。授業が大学へ行き受けられるように強く願っております。
- ・来年度は対面授業が再開されるのですか？来年度こそは再開してもらいたいです。また、学園祭や部活動なども通常通り実施できるようにしてもらいたいです。

A6. 今年度の授業については、原則遠隔授業、実験・実習や講義の一部を対面開講としました。特に大学に一度も通学できていなかった1年生に対しては、9月に登校日を2日間設けて、教務説明会とキャンパスツアーを開催し、142名の学生さんが参加しました。また、第3Qの金曜日3・4限の1年生向け授業では、履修者約200名を3グループに分け、1グループ約70名ずつが週ごとに登校して受講できる機会を設けました。残念ながらコロナ再拡大もあり、登校する学生数が著しく減少したことから、第4Qからは遠隔のみの開講へ変更したばかりです。

来年度の授業についても、コロナの感染状況に拠ることになりますが、大学としては、できる限り、対面で授業を実施できるよう対応を検討しているところです。

また、学園祭や部活動もコロナの感染状況に拠って制限されることになりますが、大学としても課外活動は学生生活の中で重要な役割を担っているとの認識であり、できる限り通常どおり実施できるよう環境整備に努めております。なお、部活動については、現在、感染予防対策が徹底できることを条件に、一部の公認団体に対し活動を認めています。ただ、本学の学園祭である六甲祭や深江祭は、学生による自主的な活動ですので、大学が開催を指示することはできません。

#### Q7. 経済支援について

- ・コロナの影響で生活苦におちいっている学生が、相談できる窓口があればと思います。生活苦のせいで学業に身が入らなくなり、留年してしまい、より一層苦しい状況に追い込まれていくという悪循環におちいらぬ様な支援をして頂けたらと思います。

・コロナの影響で親の収入がへり、学生自身も思うようにアルバイトができていない状況です。学生が安心して大学生活を送れるように支援していただきたく思います。

A7. 経済的な支援について相談できる窓口としては、鶴甲キャンパス「学生センター」に奨学支援担当の窓口があります。今年度から、日本学生支援機構の給付奨学金(授業料減免申請を含む)については春と秋の年2回募集を行うようになっております。また、その他地方奨学金についても随時募集を行っております。そういった奨学金関係の応募申請について、ご希望があれば奨学支援担当の窓口でご相談いただけます。また、コロナ禍において各種緊急の奨学金もございますので、随時ウェブサイトを確認するようお子さんにお伝えください。また、経済的な悩みだけでなく、どのような悩みでも受け付ける「学生なんでも相談」の窓口もありますので、学生さんご自身でご相談くださるようお伝えください。なお、神戸大学では、教職員から緊急寄付を募り、約930名に1人5万円の緊急支給奨学金を支給しました。引き続き経済的支援を必要とする学生さんに対し、できる限り対応して参ります。

Q8. 黄熱病予防接種について 乗船実習科進学にあたり、就職先より黄熱病の予防接種を受けるように指示がありました。大阪検疫所に問い合わせたところ、4月以降の乗船準備のための予防接種は、10月時点では個人での申し込みはほぼ不可とのことでしたが、学校からの団体としての申し込みは可能と案内されました。学校からの申し込みを学生課へ依頼しましたが、企業からその旨の依頼を受けていないため、学校からの申し込みはできないとのことでした。息子は同級生に予防接種の申込みの人員を募り、先生から検疫所へ申し込みをして頂く段取りで14名が予防接種を受けたと聞いています。就職先もそれぞれ異なる中で、すべての就職先が黄熱病の予防接種を学校に依頼するとは考えにくく、臨機応変に学生課が対応していただければよかったと思います。毎年のことですので、今後の学生のためにと思い記します。

A8. ご承知のとおり、個々の就職先が対象学生のみならず、大学が対応する事項ではなく、例年、学生さんが個人で申し込みを行っております。今年度についてはコロナ禍の特殊な状況でもあることから、学生さんから学校による申請を求められたとの情報を得た担当者が、大阪検疫所に問い合わせたところ、向こうの担当者より大学での対応は必要ないとの説明を受けたため、特別な対応を行っておりません。

原則として、個々の就職先からの依頼については、個々の学生さんでご対応いただくこととなりますが、諸事情により大学による対応が求められた場合には、教務学生グループへご相談いただければ、対応を検討いたしますので、まずはご相談ください。

Q9. かつて無い新型コロナ感染でご多忙の中、ご対応いただいている教職員の皆様に感謝いたします。息子は3年生に編入いたしましたので、ほぼ新入生と同じような立ち位置で入学いたしました。大学に問合せ連絡をしても4月末まで学生証、ネットワークID、Pass等の基礎的な情報が届かないため、親子共に五里霧中の不安な日々を過ごしました。突発的な事態であり致し方ないことであると理解していますが、大学側の情報発信の姿勢を「決定してから」発信する→「今の現状報告やこれからの計画」を頻度を上げて発信するようにして頂きたいと思っております。

A9. 4月当初においてコロナウイルス感染拡大により極めて流動的な状況だったことから、大学からの情報が不足したことにより学生さんや保護者の方にご心配おかけしましたことに

ついてお詫び申し上げます。なお、通常入学ガイダンス時に配付しております「学生証」「ネットワークID」については、編入学生へも学部入学生と共に4月中旬に発送しました。

コロナ禍で登校いただけない状況が続く、大学からの情報発信の頻度を上げる必要性については教職員も強く感じており、海事科学部では4月以降、Twitter を開設して迅速な情報発信に努めております。ただ、昨今のSNS等による情報拡散力は著しいものがあります。不確定である旨説明を付けても、内容の一部が確定したかのように安易に拡散して混乱が生じるリスクは高く、一度間違った情報が拡散してしまうと、それを正すことは非常に困難な状況です。ご不便おかけして申し訳ございませんが、大学からの情報発信は慎重にならざるおえないこともご理解いただきたく存じます。

**Q10. 課題や提出物をメールで送信した際、大半の教職員の方は受領確認のお返事を頂けるのですが、一部の方はノーリアクションで困るそうです。膨大なメールに対応することは非常に困難ではありますが、このような情勢だからこそ報告・連絡・相談・確認の仕組み作りと徹底をお願い申し上げます。**

A10. コロナ禍の状況で、学生さんとのコミュニケーションの方法が限られる中、情報発信が重要であることを教職員一同再認識し、少しでも有意義な仕組みを構築していくよう努力して参ります。

**Q11. 来年度大学院へ進みますが、この学生後援会は学部の情報を発信していただいていることで、より子供の通う大学を近く感じる事ができうれしく思っています。大学院に進んでも、同じようにこのような情報を送っていただけないでしょうか。海洋政策科学部と名前が変わるのも寂しいですが、今後のこの学部の発展を願っています。**

A11. 今回、保護者の方にお送りした情報については、後援会又は学部・研究科のウェブサイトに掲載しています。今後もウェブサイトを通じて、情報発信に努めて参りますので、大学院に進学された後も、適宜ご確認いただくと幸いです。

**Q12. 大変お世話になっております。感染症拡大の心配される中ですが、大学に伺い、保護者向けにも学部毎にお話頂ける機会があれば・・・と願っております。**

A12. 現在のコロナ感染拡大状況では、今年度内の後援会関係の行事開催は難しいと思われませんが、事態が落ち着きましたら、来年度は、例年どおり、後援会総会や行事を開催する予定ですので、その際は是非ご参加いただき、深江キャンパスまでお越しいただくと幸いです。

**Q13. 来年度から「海洋政策科学部」創設となり、1年生時より”海のアクティブラーニング””海洋リテラシー教育”が取り入れられています。現在「海事科学部」に在籍中の学生は、1年生時には”船内空間での集団・協働の学習体験””海に関する最低限必要な基礎知識を学ぶ”機会がないままコース選択となり、乗船実習を受けています。2年生で初めての乗船実習が日本丸（帆船）の為、船の特性を生かした実習も受けられていません。帆船は、登檣（マストに登る）展帆（セイルを広げる）ことで訓練だけでなく海事普及や国際交流の大きな役割を担っています。実際に練習帆船に乗船できる貴重な機会を有効にし、’98年の訓練中の事故、コロナウイルス**

の影響もあり「海事科学部」の在学生在に不足している”海のアクティブラーニング””海洋リテラシー教育””乗船実習”を補うために現在も練習帆船としての指導訓練が可能な横浜の初代に日本丸、富山の初代海王丸での”乗船実習事前研修”を海神会・海洋会等のOB組織海技教育財団にも働きかけ、2021年夏、日本初誘致で開催される韓国-日本-ロシア（ウラジオストク）の国際セイルレガッタで”海の神戸大学”の中心となる海事科学部の在学生在、新2年生、新3年生、新4年生、新乗船実習科生（現4年生）が海洋国日本の代表として合同で「練習帆船日本丸」での”登橋礼””セイルドリル””国際航海”を実現させて下さい。

A13. 貴重なご意見ありがとうございます。海事科学部在学生在が、実際に練習帆船に乗船できる貴重な機会を得ることができるよう、大学としても積極的な情報収集を行っており、関係各所へできる限りの協力依頼を行っています。今後も積極的な情報収集と、より多くの学生が、帆船のみならず様々な練習船及び「深江丸」の跡を継ぐ「海神丸」での実習において、より有意義な体験を積むことができるよう、教育及び研究を発展させるとともに、必要な情報収集と発信を行って参ります。

Q14. 海事科学部で4年間お世話になっておりますが、来春開設の海事政策科学部にも期待しております。より、世の中に認知されるためにも、研究科、学部としての目玉を打ち立ててはどうでしょうか。例えば船舶の自動走行（航海マネジメントの要素、期間マネジメントの要素、AI・ビッグデータの要素は全て神戸大学の海事科学部だけでなくシステム情報学研究科とのコラボ）、海洋探査、神戸港がなぜ低迷（日本の港全体）したのかとその対策（AI・ビッグデータの要素、経済・経営学の要素、経済経営研究所とのコラボ）、海洋環境（船舶の排ガス、排油、汚染物質の回収）に関する研究など大きな目標には裾野の広い研究分野が連携してなし得ていくものと思いますので、大きなマスタープランの元に各研究者の方が得意の研究を行うといった流れができれば、学生やこれから受験する生徒の方も学部とイメージしやすく、また研究においても対外的にもアピールできるのではないかと思います。素人考えなのですが、どうでしょうか。

A14. 貴重なご意見ありがとうございます。我が国にとって海の活用は重要であり、海上輸送や海事産業に関係する業界は幅広く、その技術力は世界をリードしてきました。新学部においては、人間と海との関わりに関する深い洞察力を有し、海洋の持続可能な開発・利用と海洋環境の保全、海事・海洋産業の発展、海洋の科学的探求、海洋に係る法秩序の安定、国際的協調と総合的管理に貢献し、将来の海洋立国を牽引する人材を育成して参ります。

学部・研究科における研究も、海洋政策科学部における人材育成とこれからの世界的潮流を見据え、より裾野を広げる、より深化していく必要があるものと学部・研究科として認識しており、構成員一同取り組んで参りますので、今後とも忌憚のないご意見いただければ有難く存じます。